

平成 24 年度 第 1 回 JSL 研修

日本語学級初任者研修—まず知っておきたいこと—

30 年の教員生活ではじめて国際学級を任された・・・」

「今年採用されたばかり。『日本語学級を担当して』といわれたのだけれど・・・」

第 1 回研修会は、こうした「初めて JSL 児童生徒に関わる教員」を中心にした研修です。まず、JSL 児童生徒教育の基礎となる情報、理論を学んでいただきます。また、参加されるみなさまより少し先輩になる、日本語学級担当者のこれまでの取組、学級経営に関する考え、子どもたちへの思いを聞きます。その上で、少人数のグループに分かれ、経験豊かな講師を交えたディスカッションを通して、参加者が抱える課題への対応の方法を探っていきます。(第 1 回研修では、「JSL カリキュラム」を直接扱うことはいたしません)

日本語学級担当の先生方から「最初は何をどうしたらよいか、見当も付かなかった」というお話をよく聞きます。少しでもそうした先生方のお力になればと考え、研修を企画いたしました。悩みや情報を共有し、他の参加者の経験を聞くことで、明日からの指導へのヒントが得られるはずです。また、同じ立場で子どもたちに関わる先生方の横のつながりを作っていく場としていただければ幸いです。お忙しい時期とは存じますが、ぜひご参加ください。

【第 1 回研修のご案内】

- 日時 : 平成 23 年 5 月 12 日(土) 10:00 ~ 16:30
- 会場 : 東京学芸大学 S 講義棟(小金井市貫井北町4-1-1)([東京学芸大学へのアクセス](#))
- 参加費: 無料
- 参加申し込み締め切り : 5月1日(火)

分科会編成の都合上、できるだけ、5月1日(火)までにお申し込みください。その後はメール、お電話でお問い合わせください。

■お申し込み方法

参加申込用紙にご記入の上、メールまたは FAX で下記までお送りください。

※ご所属は、フォーラムの準備の参考にいたします。特にご所属のない方、記入を希望されない方は空欄でも構いません。

[参加申込用紙ダウンロード](#)

○電子メール

※ 件名を「第 1 回 JSL 研修申込」としてください。

○FAX 042-329-7722

※表題を「第 1 回 JSL 研修申込」としてください。

■お問い合わせ

東京学芸大学国際教育センター事務局

電話 042-329-7727

メール:c-event(@)u-gakugei.ac.jp ※(@)を@に置き換えてください

【プログラム】

全体進行： 見世 千賀子(東京学芸大学国際教育センター)

10:00 開会挨拶 池田 栄一(東京学芸大学国際教育センター長)

10:10 はじめに 菅原 雅枝(東京学芸大学国際教育センター)

10:25 講義1「外国人児童生徒教育の課題」吉谷 武志(東京学芸大学国際教育センター)

11:00 講義2「学齢期の子どもの第二言語習得」松井 智子(東京学芸大学国際教育センター)

11:45 分科会講師紹介(11:50~12:50 昼食)

12:50 報告「日本語学級担当者の役割」

小川 亮(名古屋市立 白山中学校)

戸倉 裕介(新宿区立 大久保小学校)

(13:45~13:55 休憩・移動)

13:55 分科会

コーディネーター:小川 郁子(北区立 稲付中学校)

近田 由紀子(前 浜松市立 瑞穂小学校)

矢部 澄子(北区立 西ヶ原小学校)他

16:00 全体会

16:30 閉会

第33回 海外子女教育セミナー

「これからの海外子女教育への期待」

日本人学校や補習授業校に新しい光を。これが今回のセミナーの趣旨です。日本から、希望を持って、在外教育施設に赴任していただくようにしたいと思います。そのための応援のエールを送ります。ふるって、ご参加ください。

■日時 :平成 24 年 5 月 26 日(土)10:00~16:00

■会場 :東京学芸大学合同棟 1 階大教室

■対象 :在外教育施設派遣教員登録者、在外教育施設に派遣を希望する教員、
海外子女教育に関心をお持ちの方

■主催 : 東京学芸大学国際教育センター

■参加申し込み締め切り : 5月22日(火)

■申し込み・お問い合わせ先:

東京学芸大学国際教育センター 事務室

Tel. 042-329-7727

メール c-event(@)u-gakugei.ac.jp ※(@)を@に置き換えてください。

【プログラム】

9:30 開場・受付開始

10:00 開会 全体進行 吉谷 武志(東京学芸大学国際教育センター・教授)

10:00~10:10 開会の挨拶 池田 栄一(東京学芸大学国際教育センター長)

10:10~10:50 講演「海外子女教育の現状と課題」(仮)

中井 一浩(文部科学省初等中等教育局国際教育課・課長)

11:00~11:50 講義「在外教育施設における実践について」

佐藤 郡衛(東京学芸大学国際教育センター・教授)

11:50~13:00 昼食

13:00~15:00 海外での実践報告

田中 光一 先生 前 香港日本人学校 香港校中学部 教頭

(元 ルーマニア ブカレスト日本人学校 教諭)

現 横浜市立富士見中学校 副校長

上田 恵 先生 前 シンガポール日本人学校チャング校教諭

現 和歌山大学教育学部附属小学校 教諭

長谷川 清考 先生 前 ピッツバーグ補習授業校 教頭

現 岐阜県上之郷小学校 教頭

15:00~15:10 休憩

15:10~16:00 パネルトーク「海外での生活をめぐって」

16:00 閉会

* 詳細につきましては当センターウェブサイトにて随時ご確認ください

平成24年度 第2回 JSL 研修

みんなで考えよう JSL カリキュラムの理念を生かした授業づくり

よい授業は講義を聴いただけでは組み立てられません。実際に作ってみること、実践してみることが不可欠です。自転車の乗り方を覚えるときと同じです。はじめは支えてもらいながら、そして、ふらふらしながらであっても徐々に自分で走ってみる…。そんなイメージで、国際教育センターでは以下の予定で「授業づくり」に焦点を当てた研修を実施いたします。

● 第2回 JSL 研修会 : 6月23日(土) 10:00~16:30

- 第3回 JSL 研修会 : 10月20日(土) 10:00~16:30

第2回では、文部科学省が開発した JSL カリキュラムについて、講義を通してその基本的な考え方を、講師の指導による授業づくり分科会を通して授業の組み立て方を学びます。それをもとにご自身の教室で、子どもに合わせた実践をしていただき、第3回研修会ではその報告をお願いいたします。「やってみただけれど上手いかなかったこと」「まだ腑に落ちないこと」を持ち寄り、講師や他の参加者とディスカッションをしながらよりよい実践を目指して行きましょう。

第2回、第3回の JSL 研修会は連続して受講されることをお勧めいたします。

【昨年度参加者の声】

第2回

- * 自分では思いつかないアイデアをたくさん得ることができてよかった。
- * これからの指導のヒントをたくさんいただいたので、役立てていきたいと思います。
- * 実際に作ってみたことで、次につなげられる土台ができた。
- * 講義を受け、JSL のカリキュラムの考え方が、とてもすっきりとクリアになりました。
4月か5月に受けたかったです。

第3回

- * 実践報告ということで、敷居が高かったのですが、来て良かったです。
- * 実践の中での悩みや工夫を話して聞いていただき、皆さんや専門家の方のアドバイスを受けることができた。少人数だったので、特に話し合いやすかった。
- * 課題となる問題に皆さんが真剣に向き合って考えて下さり、本当にうれしく思います。
この会で励まされ、また、勤務校へ戻って頑張ろうという気持ちになります。

☆ 分科会編成の都合上、たいへんお手数ですが第1回研修会にご参加くださったみなさまも、改めてお申し込みください。

【第2回研修のご案内】

- 日時 : 平成23年6月23日(土) 10:00 ~ 16:30
- 会場 : 東京学芸大学 S 講義棟(小金井市貫井北町4-1-1)([東京学芸大学へのアクセス](#))
- 参加費: 無料
- 参加申し込み締め切り : 6月13日(水)

分科会編成の都合上、できるだけ、6月13日(水)までにお申し込みください。その後はメール、お電話でお問い合わせください。

■お申し込み方法

参加申込用紙にご記入の上、メールまたは FAX で下記までお送りください。

※ご所属は、フォーラムの準備の参考にいたします。特にご所属のない方、記入を希望されない方は空欄でも構いません。

[参加申込用紙ダウンロード](#)

○電子メール

※ 件名を「第2回 JSL 研修申込」としてください。

○FAX 042-329-7722

※表題を「第2回 JSL 研修申込」としてください。

■お問い合わせ

東京学芸大学国際教育センター事務室

電話 042-329-7727

メール:c-event(@)u-gakugei.ac.jp ※(@)を@に置き換えてください

【プログラム】

10:00 開会 全体進行: 榊原 知美(東京学芸大学国際教育センター)
10:00~10:05 開会挨拶 池田 榮一(東京学芸大学国際教育センター長)
10:05~10:15 趣旨説明 菅原 雅枝(東京学芸大学国際教育センター)
10:15~10:45 講義1「JSL 児童生徒教育の課題」見世 千賀子(東京学芸大学国際教育センター)
10:45~12:00 講義2「JSL カリキュラムの考え方」佐藤 郡衛(東京学芸大学国際教育センター)
12:00~12:10 分科会講師紹介

12:10~13:00 昼食

13:00~15:30 分科会 授業づくり

講師: 市川 昭彦 (大泉町立 北小学校)

今澤 悌 (甲府市立 新田小学校)

小川 郁子 (北区立 稲付中学校)

近田 由紀子 (前 浜松市立 瑞穂小学校)

濱村 久美 (新宿区立 大久保小学校)

傍士 輝彦 (東京学芸大学附属世田谷中学校)

15:30~15:40 移動・休憩

15:40~16:20 全体会

16:20~16:30 第3回 JSL 研修にむけて 菅原 雅枝(東京学芸大学国際教育センター)

16:30 閉会

平成24年度 JSL サテライト・セミナー・イン・三重
(1)【終了いたしました】

平成24年度 JSL サテライト・セミナー・イン・三重(1)

日時: 平成 24 年 7 月 26 日

高等学校における JSL カリキュラムを生かした授業作り(1)

10:00～10:05 開会挨拶

10:00～10:10 概要説明

10:20～11:20 三重県立飯野高等学校における授業報告

「世界史」報告

「保健」報告

JSL 高校生への指導の課題交流

助言: JSL カリキュラムからみた高校の授業(吉谷武志 国際教育センター)

11:20～11:30 休憩

11:30～12:40 講義:「JSL 高校生への教科指導を考える」(菅原雅枝 国際教育センター)

12:40～13:40 昼食

13:40～14:20 グループワーク1: 保健の授業を素材に指導法を考える

14:20～14:40 グループワーク1の振り返り

14:40～14:50 休憩

14:50～15:30 グループワーク2: 日本語で学ぶ力の育成を目指した授業指導案の作成

15:30～15:50 グループワーク2の振り返り

15:50～16:20 研修のまとめ

16:20～16:30 諸連絡

平成 24 年度 JSL サテライト・セミナー・イン・三重 (2)【終了いたしました】

平成24年度 JSL サテライト・セミナー・イン・三重(2)

平成 24 年 8 月 24 日

高等学校における JSL カリキュラムを生かした授業作り(2)

13:00～13:10 開会・概要説明

13:10～14:10 講義1: 保健「喫煙と健康」の授業指導案の改善の要点

14:10～14:40 グループワーク1: 授業指導案の改善1

14:40～14:55 休憩

14:55～15:55 グループワーク2: 担当教科別・授業指導案の改善

15:55～16:15 全体会: 教科別に協議内容の発表

16:15～16:25 講評

16:25～16:30 閉会挨拶

第 13 回 外国人児童生徒教育フォーラム

JSL 児童生徒の学習上のつまずきと支援

～言語・文化・発達の視点から～

東京学芸大学国際教育センターでは、平成24年10月6日(土)に第13回外国人児童生徒教育フォーラムを開催いたします。

学習上のつまずきを見せる外国人児童生徒を担当する指導者から「この子のつまずきは、日本語だけの問題なのだろうか」という声を聞くことが多くなりました。国籍にかかわらず日本語での学習経験が少ない子どもたち(JSL児童生徒)が見せるつまずきには多様な要因があると考えられます。それを知ることが子どものニーズにあった指導への第一歩となりますが、これは決して簡単なことではありません。今回のフォーラムでは、言語・文化という視点に加え、「特別支援教育が必要な可能性」をも視野に入れ、子どもの学習上のつまずきをどのようにとらえるか、その支援はどのようにすればよいかを考えます。

フォーラムでは、教育現場の現状、課題、取り組みを3組の報告者に発表していただきます。それを受けて特別支援教育の立場から東京学芸大学教授大伴潔先生にコメントをお願いいたします。大伴先生は、言語発達・コミュニケーション障害・学習障害とその支援方法論を専門とされており、現在は附属特別支援学校の校長も務めていらっしゃいます。特別支援教育に関する長いご経験から、JSL児童生徒への教育への示唆をいただけるものと考えています。その後は登壇者によるパネルディスカッション、フロアの皆様との議論を計画しております。

多様な背景を持つ子どもの「つまずき」を把握し支援に生かすには、多角的な視点から子どもを見る必要があると考えます。このフォーラムがそのための一つのヒントになればと考えております。関心をお持ちの皆様のご参加、おまちしております。

■日時 : 2012年10月6日(土)10:00~16:45

■場所 : 中野サンプラザ8階研修室2

(〒164-8512 東京都中野区中野4-1-1 TEL 03-3388-1151)

最寄駅 JR中央線・総武線/東京メトロ東西線「中野」駅 北口より徒歩1分)

■申し込み・お問い合わせ先:

東京学芸大学国際教育センター 事務室

Tel. 042-329-7727

メール c-event(@)u-gakugei.ac.jp ※(@)を@に置き換えてください。

◆ プログラム ◆

9:30 受付

10:00 開会

司会 見世 千賀子 (東京学芸大学国際教育センター)

10:00~10:05

開会挨拶

池田 榮一 (東京学芸大学国際教育センター長)

10:05~10:15

趣旨説明

菅原 雅枝 (東京学芸大学国際教育センター)

10:15~10:45

報告1: 鈴鹿市の事例から

杉谷 直美 (鈴鹿市教育委員会)

10:45~11:30

報告2: グレーゾーンの国際児に学童期にできること

島田 かおる、杉山 健太郎 (啓明学園初等学校国際学級)

11:30~12:00

報告3: 学習困難をかかえるJSL児童の見立てと指導の課題

近田 由紀子 (大阪大学大学院連合小児発達学研究所)

12:00~13:00

昼食

- 13 : 00～14 : 30 講義とコメント「特別支援教育の立場から」
大伴 潔（東京学芸大学教育実践研究支援センター）
- 14 : 30～16 : 45 パネルディスカッション及び全体討議（途中休憩 15 分）
大伴 潔（東京学芸大学教育実践研究支援センター）
近田 由紀子（大阪大学大学院連合小児発達学研究所）
島田 かおる（啓明学園初等学校国際学級）
杉谷 直美（鈴鹿市教育委員会）
杉山 健太郎（啓明学園初等学校国際学級）
榊原 知美（東京学芸大学国際教育センター）
進行：松井 智子（東京学芸大学国際教育センター）
- 16 : 45 閉会

平成 24 年度 第 3 回 JSL 研修

平成 24 年度第 3 回 JSL 研修会

みんなで共有しようーよりよい実践に向けてー

東京学芸大学国際教育センターでは今年度 2 回の JSL 研修を実施いたしました。その中で繰り返し言及されていたのが、日本国内にいる JSL 児童生徒の多様さと、子どもたちの実態に合わせて授業を組み立てる重要性です。JSL 児童生徒教育で大切なのは、知識を基に実際に授業を作り実践してみること、そしてそれを振り返ってみることだと考えております。

そこで、第 3 回 JSL 研修会は、参加者が持ち寄った実践、指導案、教材をもとに、講師を交えてディスカッションをする形の研修を企画しました。お互いの実践から良いところ、取り入れられるところを見つけ、さらによりよい実践を目指しましょう。

皆様のご参加、お待ちしております。

平成 23 年度 第 3 回 JSL 研修会

■日時：平成 24 年 10 月 20 日(土) 10:00 ～ 16:30

■場所：東京学芸大学 S 講義棟

(小金井市貫井北町4-1-1)([東京学芸大学へのアクセス](#))

■参加費：無料

■内容：講師による実践紹介、参加者による実践報告、ディスカッション、講師からのアドバイス

■定員：30 名

■お問い合わせ：東京学芸大学国際教育センター事務室 042-329-7727

☆ お申し込みにつきましては、以下のご案内をご覧ください。

■第 3 回 JSL 研修会 お申し込み方法

第 3 回研修会は、当日ご紹介いただく内容によってグループの編成を行いますので申込用紙および「報告の概要」をご記入の上、お申し込みください。申し込みの締め切りは 10 月 10 日(水)とさせていただきます。

なお、概要をご記入いただいていないお申し込みはお受けできません。あらかじめご了承ください。

【お申し込みフォームの記入について】

λ対象とした子ども

年齢が異なる複数の子どもたちを対象とした授業の場合は「その他」をお選びください。特定の子どもに焦点を当てて授業等を計画した場合はその子どもの学年で結構です。

λ授業

「トピック型 JSL」の授業は「日本語」としてください。ただし、特定教科とのつながりを意識して作成したものは教科としてください。

λご報告の内容

- ・実践報告: 実際の授業の様子をご紹介ください。
- ・指導案/教材: 形式は問いません。また、「計画」段階のものでも構いません(ただし、「子ども像」はできる限り明確に想定してください)。

「今回初めて参加したい」という方、現在実践の場をお持ちでない方もご参加いただけます。過去の授業事例や教材、子ども像を想定して作成した指導案のほか、JSL 児童生徒に対する授業を見学した記録などをお持ちください。「どのような子どもを対象にした授業で、どのような工夫がみられたか。自分だったらどんな展開にしたか」などのご報告でも結構です。

【当日までの流れ】

お申し込み時にいただいた「報告の概要」は、分科会ごとに冊子にし、当日の資料といたします。それ以外の資料等につきましては、お申し込み受付後にご案内いたします。確実に連絡が可能なメールアドレスまたはファックス番号をお忘れなくご記入ください。

■参加申込用紙

[H24JSL03.docx](#)

■お申し込み先

○電子メール c-event(@)u-gakugei.ac.jp

※(@)を@に置き換えてください

※ 件名を「第3回 JSL 研修申込」としてください。

○FAX 042-329-7722

※表題を「第3回 JSL 研修申込」としてください。

第4回多文化共生フォーラム

「多文化児童のことばと文化の獲得—幼児期の発達をとらえて」

東京学芸大学国際教育センター 主催

2013年01月26日 [土]

子供たちは周囲の大人たちとのやりとりを通して、言葉と文化を獲得していきます。乳幼児期のコミュニケーションは子供たちの健全な言語の発達に不可欠です。しかしさまざまな理由から、この時期に十分なコ

コミュニケーションの経験を積むことのできない子供たちもいます。その結果、子供たちは就学後、考える力、理解する力、伝える力が伸びにくいというハンディを負う可能性があります。日本在住の多文化児童の育つ環境にも、そのようなハンディを生む要因が少なからずあるようです。それらの要因を知り、マイナス面を補完するために周囲の大人たち、現場の教員にできることを検討することが肝要です。

そこで、今回のフォーラムでは、保育現場での取り組みから見えてきたことを3組の方々にご報告いただきます。子供の言語と文化の発達と障害について先駆的な研究および実践を積まれていらした本学名誉教授の飯高京子先生に、乳幼児期の発達についてお話をうかがいます。それに続くディスカッションは、外国人児童のプレスクール事業の開発・推進に携われた築樋博子先生にリードしていただきます。ご関心をお持ちの方々にご参加いただけましたら幸いです。

■日時 : 2013年01月26日(土)13:00~17:10

■場所 : 東京学芸大学(小金井市貫井北町4-1-1) S講義棟 3階 303教室

■定員 : 80名(お申し込み受付順)

■参加費 : 無料

■申し込み・お問い合わせ先 : 東京学芸大学国際教育センター 事務室

TEL. 042-329-7727 FAX 042-329-7722

メール c-event(@)u-gakugei.ac.jp ※(@)を@に置き換えてください。

◆ プログラム ◆

- | | | | |
|-------------|-------------------------------|--|--------------|
| 13:00 | 開会 | 総合司会東京学芸大学国際教育センター・教授 | 菅原雅枝 |
| 13:00 | 開会の辞 | 東京学芸大学国際教育センター長 | 池田榮一 |
| 13:05 | 趣旨説明 | 東京学芸大学国際教育センター・教授 | 松井智子 |
| 13:20~14:00 | 「幼稚園における外国籍幼児の保育現状と課題」 | 東京学芸大学附属幼稚園小金井園舎・副園長
豊島区立西巢鴨幼稚園・副園長 | 田代幸代
小林幾子 |
| 14:00~14:30 | 愛知県西尾市プレスクール・プログラムの実践からみえたこと」 | 西尾市多文化子育て支援事業外国人児童コーディネータ | 川上貴美恵 |
| 14:30~15:00 | 「多文化共生保育における実践と課題について」 | シンエイランド(浜松市)・園長 | 佐藤公一郎 |
| —休憩— | | | |
| 15:15~16:00 | 「ともに育ち、ともに学ぶ」 | 東京学芸大学名誉教授 | 飯高京子 |
| 16:00~16:20 | 指定討論 | 豊橋市教育委員会外国人児童生徒教育相談員 | 築樋博子 |
| 16:20~17:00 | ディスカッション | | |
| 17:00 | 閉会の辞 | 東京学芸大学国際教育センター・教授 | 佐藤郡衛 |
| 17:10 | 閉会 | | |

第6回 国際教育センターフォーラム

平成 24 年度 国際教育センターフォーラム

外国人住民の子育てを軸にした〈戦略的〉地域参加 —差異のコミュニティから互恵的コミュニティへ—

■日時 :平成 25 年 3 月 2 日(土) 13 時~16 時 30 分

■場所 :中野サンプラザ8階研修室2

最寄駅 JR中央線・総武線/東京メトロ東西線「中野」駅 北口より徒歩 1 分)

■定員 :80 名(お申し込み受付順)

■参加費: 無料

■申し込み 2 月 25 日までにお申し込みください

■申込み・お問い合わせ先: 東京学芸大学国際教育センター 事務室

TEL. 042-329-7727 FAX 042-329-7722

メール c-event(@)u-gakugei.ac.jp ※(@)を@に置き換えてください。

【趣旨】

今日、各地に居住する多文化住民は一時的な滞在者としてではなく、地域社会の一員として、地域社会への参加を模索し、多くの方が地域の一員として地域を支えています。

いくつかの地域では、迎える側の日本人支援者と多文化住民との協力によって様々な課題に当面しつつも、工夫を重ね、元々の地域住民との良好な関係を築きつつあることが知られています。しかしながら、同時に、全国的に見た場合、解決されるべき課題も未だ多くあるのが現状です。

こうした多文化住民の地域社会への参加には、様々なきっかけがありますが、その典型的な事柄として「子育て」の課題があると考えられます。

多文化住民にとっても、日本の住民と同様に、次の世代である子どもたちをいかに育て上げるのか、よりよい社会の一員として将来の地域社会を支えるような子どもたちをいかに育てうるのかということは、重要な課題です。その際、忘れてはならないのは、多文化住民は単なる「被支援者」ではなく、支援者との連携の元に、自律的に地域社会に貢献しようとする努力をしているということです。

本フォーラムでは、多文化住民が「子育て」という自らにとって重要であり、しかも日本の地域社会で住民と共有しやすいという課題を通して、日本の住民と協働しながら、地域社会への参加を模索している事例をとおして、今後の多文化住民と地域のあり方を考えていきます。

その際、今日の地域社会が、多文化住民と元々の住民との間に「差異」をみだし、それを前提とするような関係性、関係作りから、地域社会そのものが変容を遂げ、あるいはそれを模索する、いわば「互恵的」関係性を実現しようとしている姿を提示してみたい。

提示する二つの事例は、その支援者としての日本人と主体としての多文化住民との関係性、その役割において、それぞれの特色をもっており、それぞれのあり方で、戦略的に子育てを通して地域参加を模索しています。

福智町では、多国籍の多文化住民と支援者の試みを、倉敷市ではフィリピン・サークルの試みを紹介し、この課題を考えていきます。

〈参考〉

※互恵的コミュニティのモデル(暫定)は国際教育評論掲載論文(吉谷、伊藤共著「多文化地域・学校を支える地域住民の関わり—新たなコミュニティ・モデルの創出に向けて」第7号、研究ノート)によります。

【プログラム】

○開会行事

総合司会: 見世千賀子(東京学芸大学国際教育センター)

○フォーラムの趣旨: 吉谷武志(東京学芸大学国際教育センター)

「外国人住民の地域コミュニティへの参加とコミュニティの質的変容」

— 互恵的コミュニティの創出の可能性を展望する —

○外国人住民の地域参加について

事例報告1: 福岡県福智町「子育てサロン日本語教室」の活動

— 子育て支援から自立、地域参加への道程 —

高橋英志(社会福祉法人 福智町社会福祉協議会)

大隈信幸(社会福祉法人 福智町社会福祉協議会)

コメント: 三木一司(近畿大学九州短期大学)

事例報告2: 岡山倉敷フィリピノ・サークル(OKPC)の活動

— 子育て課題の解決から自立的な地域参加の模索 —

古谷ミラソル(岡山倉敷フィリピノ・サークル前代表)

古谷カイル(岡山倉敷フィリピノ・サークル会員)

コメント: 伊藤亜希子(山梨大学大学教育研究開発センター)

○パネルディスカッション

外国人住民の地域参加によるコミュニティの変容を展望する

— 差異のコミュニティから互恵的コミュニティへ —

コーディネータ: 佐藤郡衛(東京学芸大学国際教育センター)

古谷ミラソル(岡山倉敷フィリピノサークル前代表)

古谷カイル(岡山倉敷フィリピノサークル)

高橋英志(社会福祉法人 福智町社会福祉協議会)

大隈信幸(社会福祉法人 福智町社会福祉協議会)

三木一司(近畿大学九州短期大学)

伊藤亜希子(山梨大学大学教育研究開発センター)

吉谷武志(東京学芸大学国際教育センター)

(以上、敬称略)